

氏名（本籍）	木原（川辺） 茜（山口県）		
学位の種類	博士（音楽）		
学位記番号	乙第2号		
学位授与年月日	平成28年3月19日		
学位授与の要件	学位規則第4条第2項		
学位論文題目	A. シェーンベルク《架空庭園の書》（作品15）の分析と演奏解釈の試み		
学位論文等審査委員			
（総合審査）	委員長	准教授	沼口 隆
		教授	秋山 理恵
		教授	岩森 美里
		教授	友利 修
		教授	横井 雅子
		教授	塩原 麻里
		（演奏審査）	委員長
教授	秋山 理恵		
教授	岩森 美里		
教授	田中 淑恵		
	寺谷 千枝子（東京藝術大学音楽学部声楽科教授）		
（論文審査）	委員長	准教授	沼口 隆
		教授	友利 修
		教授	横井 雅子
		教授	塩原 麻里
			広瀬 大介（青山学院大学文学部准教授）

審査結果の要旨

審査所見

学位審査委員会は2016年2月15日、申請者 木原 茜の学位審査修了リサイタルならびに学位申請論文に関して、厳正な審査を行った。以下に、1. 演奏審査、2. 論文審査、3. 総合審査、に関する所見を記す。

1. 演奏審査

学位審査演奏会においては、学位申請者が主要な研究対象としたシェーンベルクの《架空庭園の書》（作品15）をプログラム後半に配し、前半はそれに至る歴史的な脈絡を意識したことが窺われる演目となっていた。すなわち、ツェムリンスキー《トスカーナ地方の民謡によるワルツの歌》（作品6）、シェーンベルク《4つの歌》（作品2）、同《8つの歌》（作品6）より第2、3、8曲である。

表現の幅が限定されているなどの問題も指摘されたが、透明感のある美しい歌声という資質ならびに難度の高い楽曲に真摯に取り組んだ姿勢は評価をされた。

2. 論文審査

学位申請論文「A. シェーンベルク《架空庭園の書》（作品15）の分析と演奏解釈の試み」は、

シェーンベルクの無調期に作曲された当該作品に関して、詩や楽曲の分析を主要な手掛かりとしながら、より聴衆に訴えかける演奏法を模索したものである。一般に馴染みにくいと思われている無調作品について、聴衆に分かりやすい演奏を組み立てる方法を考察するという、実技専攻者らしい問題意識には一貫性があり、熱心な取り組みの跡も認めることができる。楽曲分析およびその結果をいかに活かすかという点については、申請者の経験も踏まえた形で書き進められ、オリジナリティとして高く評価できる。また、あまり日本語で言及されることのない作品について、必要な情報も十分に提供されている。

全体の構成においては、初演の頃の受容状況の調査、歌曲史における当該作品の位置づけ、シュテファン・ゲオルゲの『架空庭園の書』全体への考察を踏まえたテキスト解釈など、研究対象をさまざまな文脈に位置づけようとする意識が表れている。とりわけ、20世紀初頭の雑誌記事に解釈を加えた上、それらの資料と対訳を付録に収録した点には功績が認められる。

他の作曲家たちとの関係性や、シェーンベルクの創作の中での当該作品の位置づけなどについて、より綿密な記述が求められる面もあるが、今後、当該作品に取り組もうとする他の演奏者にも資するところがあり、その点でも十分に意義のある研究成果である。

3. 総合審査

演奏領域における博士後期課程にあつて、研究と演奏実践をどのように関連づけるかは重要な課題であり、この課題に正面から一貫性と熱意をもって取り組んだ点は評価される。学位審査演奏会においては、高い技術を要する無調の作品を中心に据えて、一定水準を超える演奏を実現した。論文に関しても、『架空庭園の書』の全15曲について、演奏解釈上の観点から様々な提言とともに豊かな洞察を与えた点は高く評価される。今後は演奏技術においても、論理的記述においても、より完成度を高める修練を望みたい。これら全体を審査し、社会において自立した演奏家としてみとめられるとの総合的な評価のもと、「博士（音楽）」**Doctor of Musical Arts** の学位を授与するに相応しいものと判定する。